

登録日	2025/4/8
腫瘍名	胃がん

登録番号	Gas038
申請医師	消化器外科

投与スケジュール

XELOX+Zolbetuximab				21日毎 × PDまで	
				1コース	2コース
				1 8 15	22 ... (day)
① デキサート	9.9 mg	点滴 30分	↓		↓
パロノセトロン	0.75 mg				
アロカリス	235 mg				
ポラミン	5 mg				
生理食塩水	50 mL				
② 生理食塩水	50 mL	点滴 5分	↓		↓
(前投薬用フラッシュ)					
③ ビロイ	800 mg/m ²	点滴 2時間以上	↓		↓
注射用水100mL	1 本				
生理食塩水	500 mL				
別紙の速度表を参照して段階的に速度をあげて投与 2回目以降は600mg/m ² で投与					
④ 生理食塩水	50 mL	点滴 5分	↓		↓
(ビロイ用フラッシュ)					
⑤ オキサリプラチン	130 mg/m ²	点滴 120分	↓		↓
5%ブドウ糖	500 mL				
⑥ 5%ブドウ糖	50 mL	点滴 5分	↓		↓
(オキサリプラチン用フラッシュ)		(全開)			
⑦ ゼローダ	2000 mg/m ² /day	経口 朝、夕		Day 1～14	Day22 ~

注意事項

【適応】 CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な胃がん(原則、1次治療)
【投与延期、中止基準】 適正使用ガイド参照
【調製上及び使用上の注意】
・催吐高リスク
Day2～4までデカドロン8mg/dayを投与
ビロイ投与前日からオランザピン1回5mgを開始し、Day4まで投与する。糖尿病がある際、他の制吐剤に変更する。 (外来時は、Day1から投与でも可)
・ビロイは、別紙の”調製量と投与速度の一覧表”を参照して、投与量に応じた調製量や投与速度を実施する。
・ビロイ投与速度
800mg/m ² : 投与開始から30～60分まで100mg/m ² /時、その後、200～400mg/m ² /時に変更可能。
600mg/m ² : 投与開始から30～60分まで75mg/m ² /時、その後、150～300mg/m ² /時に変更可能。
・副作用対策として、投与速度の減速や中断または中止などの処置を行う。
・ビロイは、体表面積と投与量に応じて、溶解液の処方を変更可能とする。

参考文献

1) Nature Medicine, 29, 2133–2141 (2023).
2) 添付文書
(ビロイ2024年6月改訂版、オキサリプラチン2023年8月改訂版、ゼローダ2024年2月改訂版)